

調布市文化協会
調布市小島町2-33-1 調布市文化会館たづくり6F

調布市文化協会
CHOFU CULTURE ASSOCIATION
第71号

URL : <http://www.chofushibunkakyokai.jp>
chofu-bunkyo@bj.wakwak.com

これからの調布の文化

―地域資源との融合、新たな活動を―

新型コロナウイルスに翻弄された四年が経過し、新たな日常はどのようなものか。その中であつてこれからの文化の在り方について荻本貞臣氏（公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団理事長）と大内輝雄（調布市文化協会会長）との対談を企画しました。

大内 ご経歴をご紹介します。現在の国領町に生まれました。

荻本 現在の国領町に生まれて、現在に至っています。太平洋戦争直前に現在の調布市立第一小学校に入学しました。

大内 戦中に長野県松本・大町市での学童疎開を体験、都合五回の転校を経て現在の調布市立第二小学校を卒業しました。



(左) 調布市文化協会会長 大内 輝 雄
(右) (公財) 調布市文化・コミュニティ振興財団理事長 荻 本 貞 臣

この時代、父親は家長として威厳がありました。「人のために働け」という教えが今に生きています。

大内 戦前の調布の生活の様子はどのようなものでしたか。

荻本 江戸時代、甲州街道の野川から飛田給の間に五つの宿（上・下石原、上・下布田、国領）があり、運搬される荷物の中継ぎをしていました。当時、信州の高遠藩の御用を承り「高遠藩御用」の藩印が我家に伝わっています。

この辺りは農業だけでは生活が厳しいので養蚕など様々な副業が行われていました。秋の祭礼は勿論日常生活も五つの宿単位でした。更に宿の中の七軒で「組合」を作り、冠婚葬祭ではもてなしの料理の調整、墓地の準備等今では考えられない協力体制が整っていました。

大内 今の調布は撮影所

や大学、研究所がもたらした新しい文化に象徴されているように思います。それをどのように活用していきましょうか。

荻本 昭和八年に多摩川撮影所が建設されたのを始まりとして、昭和三十年代の日本映画全盛期から現在にいたるまで、調布にはたくさんの映画・映像関連企業が集まっています。映画を作る人たちやその家族が住むまちとして調布が発展してきたのです。私どもの財団では、そのような歴史を知らない市民にも『映画を作る人たち』に注目してもらいたいと「映画のまち調布シネマフェスティバル」を開催しています。

一方で、音楽についても、世界的に活躍する音楽家を輩出する桐朋学園大学があります。「調布国際音楽祭」は、プロデューサーも調布出身、これから世界に羽ばたく若き音楽学生たちも多く参加するなど、まさに調布の新しい文化と言えます。

このような豊かな文化の土壌がある調布市で、ひとりひとり芸術・文化に触れる機会となっている「市民文化祭」も、これからもつと活用していく大切な文化資源と考えています。

大内 オリンピック・パラリンピックも終わり、コロナも収束の様子が見えます。これからの調布の文化への思い、新しい文化と深大寺などに代表される伝統や歴史との調和をどのように図つたらよいでしょうか。

荻本 私ども財団は、市内で芸術・文化活動を実施している市民や団体の皆様のご協力を頂きながら、深大寺など数々の歴史的な地域資源と融合を図りつつ文化活動を続けています。

それと同じく商工会や商店街、地域などで新たな活動をしている市民や団体とも協調を図っており、これまで以上に、地域との繋がりは非常に大事な点になっていくと考えています。財団だけでは出来ないことも協力し合うことで、様々なアイデアや課題の解決に結びつくことができ、色々な方々と協力して事業を行っていきたいと思います。

大内 ありがとうございます。調布市文化協会の発展のため努力いたします。これからもよろしく願っています。

第57回 定期総会

第五十七回調布市文化協会の定期総会が去る四月二十七日(木)に調布市文化会館たづくり大会議場で開催されました。

総会は榎本和江副会長(事務局長)の司会で進められました。冒頭に大内輝雄会長が挨拶、次いで田中健調布市副市長より「コロナ禍であるが市民文化祭に約二万八千人、駅前広場の市民フェスタにも多くの方の来場があり、市民の交流が十分に図られたことほうれいことです。会長以下の役員の皆様に感謝いたします。」とのご挨拶を頂きました。また、小林市之調布市議会議長より「市民文化祭や実技講座、生涯学習講座等の芸術文化活動の実践は市民の五感に訴えるものであり、今後更に期待をいたします。」とのご挨拶を頂きました。



席状況を報告、議長より書記に峯岸誠理事が指名され議事に入りました。

第一号議案の「二〇二二年度事業報告」と第二号議案の「二〇二二年度一般会計決算報告」及び「会計監査報告」は一括審議されました。

事業報告は榎本和江副会長(事務局長)、一般会計決算報告は村田由美理事(会計担当)、会計監査報告は鈴木あみ(大正琴連盟)からそれぞれ説明、報告が行われ、各々承認されました。

第三号議案の「役員名簿」は大内輝雄会長が報告しました。

第四号議案の「二〇二二年度事業計画(案)」と第五号議案の「二〇二二年度一般会計予算(案)」は一括審議されました。

事業計画(案)は榎本和江副会長(事務局長)、一般会計予算(案)は村田由美理事(会計担当)から説明が行われ承認されました。

質疑の中で市民文化祭の一般参加者の受付方法について発言がありました。総会の審議事項にあたらないため、事業計画(案)十五のカッコ内事項は、削除しました。

柏谷和子副会長が参加者への謝辞を述べて閉会となりました。なお、当日の参加状況は左記のとおりです。

理事・評議員総数 九一名
出席者数 七二名
委任状提出者数 十三名
当日欠席者数 六名

調布市文化協会

令和五年度役員

〔会長〕
大内 輝雄(民謡連盟)

〔副会長〕
柏谷 和子(書道連盟)
榎本 和江(いけばな連盟)

〔事務局長〕〔兼務〕
榎本 和江(いけばな連盟)

〔会計〕
村田 由美(民謡舞踊好会友会)
井上 正昭(民謡連盟)

〔庶務〕
平野 美樹(民謡舞踊好会友会)
峯岸 誠(歌謡同好会連盟)
黒岩 慧美子(工芸美術協会)
富田 雅美(洋舞協会)

〔会計監査〕
鈴木 あみ(大正琴連盟)
浅野 修一(いけばな連盟)

第六十八回 市民文化祭実行委員会

第六十八回市民文化祭に向けての実行委員会が五月十二日(金)及び七月七日(金)にそれぞれ調布市文化会館たづくり大会議場で開催されました。

第一回実行委員会では大内輝雄実行委員長の挨拶に続き、主催者を代表して(公財)調布市文化コミュニティー振興

財団宇津木光次郎常務理事より「コロナ禍の制約の中で創意工夫された文化祭が展開されてきました。予断は許されない状況ではありますが充実した文化祭となることを期待いたします。」との挨拶がありました。

次いで榎本和江副実行委員長の司会の下で参加団体数や運営予算案、開催日程などが説明され、左記のように概要が承認されました。

開催期間

10月12日(木)～11月12日(日)

今年のテーマ

―誰もが笑顔

―ここから広がる文化の輪―

開会式

10月12日(木)午後6時より

調布市文化会館たづくり

くすのきホール

文化フェスタ

加盟団体の実技コーナーや舞台発表、エスペラント会、アマチュア無線クラブの発表・展示を行います。

10月14日(土)～10月15日(日)

市役所前庭

地域文化祭(地域単位で開催します)

開催期間

10月28日(土)～11月5日(日)

※10月30日(月)は休館

会場 東部・西部・北部各公民館

調布市長と語る文化懇談会

調布市長と文化協会理事が一堂に会して、調布の文化について語り合う会はコロナ禍で三年間中止されてきました。

六月三十日(金)たづくり十階の学習室に於いて再開されました。当日は長友貴樹市長と文化協会理事

三十五名が出席し、和やかな雰囲気の中で懇談会が開かれました。

冒頭、大内輝雄会長の挨拶があり、まず囲碁連盟や大正琴連盟から実技講座などを通して市内に住む外国の方が参加し、国際交流の場となった、言葉の壁はあるもののこれらの機会を通じて交流を深め将来につながる文化の発展を目指していくことが報告されました。この報告を受けての意見交換では、民謡舞踊好会

から古くから民間で行われている伝統的な盆踊りの復活が具体的に提案され、市長の考える賑わいと交流のある街づくりについて出席者と熱い議論が行われました。

参加者から花いっぱい運動の本格化やコロナ禍後の木島平村との交流会の在り方、グリーンホールの建て替えについての意見や思いも披歴されました。

また、エスペラント会からは、カナダのケベック州との交流という国際的な視野での実践報告も行われました。

このような活発な実践や意見を受けて長友貴樹市長は、自らの海外生活の中で言葉の壁にぶつかり苦勞を

した経験を披歴されました。さらに、街がより一層便利になる時にこそ、心の安らぎや自然の潤いが大切であると強調されました。

さらに、市政六十周年では「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」を文化協会とともに発することができたことを踏まえ、七十周年ではこれまでの取り組みを定着させ、規模を拡大していくという強い意欲が示されました。



文化講座

名見耶明氏による書の見方、楽しみ方

調布市書道連盟理事長 小川みよ子

書道連盟創立二十周年の年、名見耶明先生をお迎えしての文化講座が、令和五年六月二十一日映像シアターで八十九名のお申込みを戴き実施致しました。

日本の書道史・文学の伝来を出土品で確認しながら、スライド画像を使つての分かり易い説明で進みました。その中で、皆さんが盛り上がったのは二千円札の話です。かたかなを除いて一枚の中に全ての書体が入っていると...。出席者の方々からは、楽しかったという言葉が嬉しかったです。



三原色巧繪之本教習

粵語班第 14 期
粵語班第 14 期



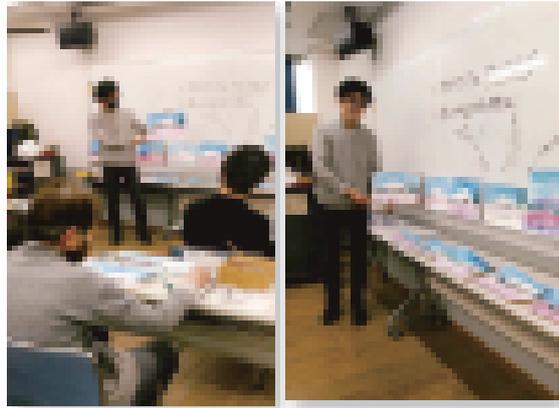
「三原色」是繪畫的基礎，也是繪畫的靈魂。在繪畫中，色彩的運用至關重要。本教習將由專業老師指導，從色彩的理論到實踐，讓學員們掌握繪畫的精髓。

粵語班第 14 期

「三原色」是繪畫的基礎，也是繪畫的靈魂。

粵語班第 14 期

本教習將由專業老師指導，從色彩的理論到實踐，讓學員們掌握繪畫的精髓。

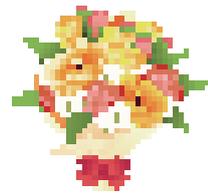


花山遊藝

粵語班第 14 期
粵語班第 14 期



「花山遊藝」是粵語班的一項特色活動。在活動中，學員們將通過遊戲、競賽等形式，學習和掌握粵語的表達方式。這不僅能提高學員們的語言水平，還能增進彼此的了解和友誼。



「用講人話」

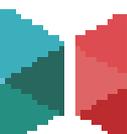
粵語班第 14 期
粵語班第 14 期



「用講人話」是粵語班的一項特色活動。在活動中，學員們將通過角色扮演、情景對話等形式，學習和掌握粵語的表達方式。這不僅能提高學員們的語言水平，還能增進彼此的了解和友誼。



粵語班第 14 期





初心者のための公算講座を開催しました

【開催日時】12月14日（土）13:00～15:00
【会場】本館3階大会場



本館の公算講座は、初心者の方を対象とした講座です。今回は「公算の基礎」をテーマに、公算の仕組みや申請方法、審査の流れなどを詳しく説明しました。講師は、公算の専門家であり、豊富な経験を持つ方です。質疑応答の時間も設け、参加者の疑問を丁寧に解答しました。参加者は、公算の重要性や申請のポイントを学び、今後の活動に活かすことを目指しています。



「投資100円」の魅力を学ぶ講座を開催しました

【開催日時】12月14日（土）15:30～17:00
【会場】本館3階大会場

本館の「投資100円」講座は、初心者の方を対象とした講座です。今回は「投資100円の魅力」をテーマに、投資の基礎知識やリスク管理、投資のメリットなどを詳しく説明しました。講師は、投資の専門家であり、豊富な経験を持つ方です。質疑応答の時間も設け、参加者の疑問を丁寧に解答しました。参加者は、投資の重要性やリスク管理のポイントを学び、今後の活動に活かすことを目指しています。



2024年度定例会（第10回）を開催しました

【開催日時】12月14日（土）18:00～20:00
【会場】本館3階大会場

本館の2024年度定例会（第10回）は、初心者の方を対象とした定例会です。今回は「2024年度の振り返りと2025年の展望」をテーマに、2024年度の活動の振り返りや2025年の展望を詳しく説明しました。講師は、本館の代表者であり、豊富な経験を持つ方です。質疑応答の時間も設け、参加者の疑問を丁寧に解答しました。参加者は、2024年度の活動の振り返りや2025年の展望を学び、今後の活動に活かすことを目指しています。





四年ぶりに再開

草津町文化協会との研修交流会

梅雨近しを思わせるやや肌寒い中を三々五々市役所裏の駐車場に参加者が集まり始めました。平成三十一年五月の静岡県伊豆市との交流以来、コロナ禍により途絶えていた研修交流事業が再開されました。

五月二十八日(日)午前七時三十分、バスは定時で出発しました。

目的地は草津温泉で知られる群馬県草津町(面積四十九、七㎢、人口六〇四三人)です。調布市からは大内輝雄会長以下二十三名(八団体)に吉野友喜氏(生活文化スポーツ部)も同行されました。



往路は「竹久夢二伊香保記念館」と「道の駅八ッ場ふるさと館」を見学し、研修を深めました。

画や子供絵など膨大な作品と繊細な音色のアンティークオルゴールを鑑賞しました。昼食後は「道の駅 八ッ場ふるさと館」に向かいました。「八ッ場ダム」は利根川下流部への洪水調節や群馬県による発電など、治水・利水を目的としたダムで計画から六十二年後の令和二年に完成しました。駐車場から数分で不動橋にでます。湖面からは約百メートルの高さ、はるか彼方にダムのでけを見ることができました。見学後、二十分足らずで宿舎の草津ホテルに到着しました。到着後、ホテル併設の「片岡鶴太郎美術館」を見学しました。



翌二十九日(月)は前日とは打って変わって強い雨降りでした。研修交流会は「草津町公民館」で行われ、榎本副会長の司会で進められました。草津町文化協会会長中澤篤夫さんは満面の笑みを湛えて歓迎の言葉を述べられました。その中で会員の高齢化と併せて少

子化の影響を課題とし、ご自身が関わられている「前口獅子舞保存会」を例示して、青年層から小中学生を対象を広げて活動をしていると話されました。出席者の自己紹介後、草津町から宮崎副会長、調布市から榎本副会長がそれぞれの組織と活動の紹介を行いました。草津町文化協会は先述の「前口獅子舞保存会」など二十七の個別の団体が構成されているとのこと。この点は加盟団体が複数の団体・サークルで構成されている調布市文化協会とは異なることでした。次いで意見交換が行われ、草津町と調布市から参加した各団体の状況や工夫していることなど活発に事例が披露されました。調布より新入会員の定着を図るために初心者向けの指導法の工夫や発表会で使用する楽器をリースにして個人の物理的な負担の軽減を図っているとの発言もありました。また、

草津町から伝統芸能を根付かせ、継承させるための地域への働きかけや幼稚園・学校との連携など示唆に富んだ内容もありました。調布市奇術協会から奇術の披露、草津町から草津小唄の手ほどきを頂くなど和やかな交流が図られました。

昼食後は、激しい降雨のため鎌原観音堂の見学を省略し、午後五時前に無事調布に戻りました。

今回の交流事業に参加された皆様そして日程の立案や宿泊施設、現地との関係機関等との交渉等に当たられた関係の皆様には紙面を借りて御礼申し上げます。



令和五年 度 (第三十三回) 木島平村芸術文化協会との交流に参加して
 奇術協会 岳野 勝治



早朝六時三十分予定通り、参加者二十一名(五団体)それぞれの想いを乗せて目的地、北信濃木島平村に向って出発致しました。途中さわやかな緑多い山間部を快走し、さしたる渋滞もなく無事予定の十二時前にパノラマランド木島

平に到着致しました。

木島平村芸術文化協会の役員の方々のお出迎えを頂きましたが、四年ぶりなので、懐かしい方々も少なくなっておりました。

さっそく多目的ホールでの芸文協との交流会、地元グループ音楽バンドの「調布市歌演奏と合唱」、調布市文化協会の「木島平村歌の



合唱」とエールの交換に始まり、文化協会の「尺八演奏」「マジック」「日本舞踊」等々のご披露が行われ、最後は木島平村の無形民俗文化財、からす踊り保存会の会員先導による「からす踊り」の輪舞で終了。今年の「夏まつり」は木島平村よりの「ご案内と依頼」文にもある様に、以前とは大きな変化が見られました。

まず、会場が以前の学校グラウンドから、けやきの森公園に変更。食品関係を中心とした屋台十二店が並んだ事。色々な設備はミストの散布に至るまで配慮されていましたが、盆踊りの櫓は奥のほうに設置されていました。

盆踊りが開始されました。屋台の前は多くの方が列をなしていましたが踊りのほうは調布市からの参加者の揃いの浴衣が目立ちました。時代の変化は盆踊り「からす踊り保存会」の努力

にもかわらず、参加するものから見て楽しむものによって変わって行くのでしょうか？

特筆事項として、会員はじめ役員の方々の献身的なご対応、本当に有難うございました。台風七号の接近により天候が非常に心配されましたが、往路、開催場所共に天候に恵まれ、復路途中豪雨に恵まれましたが調布では止んでいました。





第二十七回 生涯学習講演会
豊饒の文学 源氏物語
 光源氏の本性

本年度の生涯学習講演会を左記のように行います。詳細は市報や文化協会のホームページ等でお知らせいたします。

日時 令和六年二月二十七日(土)
 午後六時～午後七時五十分
 (開場 午後五時三十分)

演題 豊饒の文学 源氏物語
 光源氏の本性

講師 伊藤 好英氏
 (いとう よしひで)

略歴 一九四八年生
 慶應義塾大学修士課程、
 高麗大学校博士課程修了
 博士(文学)

元慶應義塾高等学校教諭
 藝能学会会長
 『折口学が読み解く韓国雲空能』
 (慶應義塾大学出版会、
 二〇〇六年)、
 『折口信夫 民俗学の場所』
 (勉誠出版、二〇一六年)、
 『明解 源氏物語五十四帖』
 (池田彌三郎と共著、淡交社、
 二〇〇九年) などがある。



主催 調布市文化協会
 後援 調布市 (公財) 調布市
 文化・コミュニティ振興財団

2023年度後期 調布市文化協会 実技講座・文化講座実施予定

事業名	実施団体	回数	実施日	実施場所	時間
皆んなで楽しく踊りましょう	調布市民謡舞踊友好会	2	10月 3日(火) 10月10日(火)	百日紅、花水木	10:00 ~ 12:00
王冠で奏でよう	調布市演劇協会	2	2024年 2月25日(日) 3月 2日(土)	グリーンホール 小ホール	14:00 ~ 16:00 夜 間
Dance Dance Dance!! ~モダンバレエ&ダンスで楽しく身体を動かそう★	調布洋舞協会	2	3月26日(火) 3月27日(水)	グリーンホール 小ホール	15:00 ~ 16:15

● 編集後記 ●

新型コロナウイルスへの対応で中止となっていた文化協会の交流事業が再開されました。草津町、木島平村との交流の様子などをお知らせします。また、巻頭は対談としてみました。

これらのためにご尽力くださった皆様に深甚なる謝意を表します。

広島や開式待つ間の蟬しぐれ
 (峯岸 誠)

今年前半の文化協会の活動をお届けします。

「楽しい、読みたい!」をコンセプトに、多くのご意見をもとに試行錯誤し、なんとか完成しました。

会員の皆様のご協力に感謝し、引き続き魅力的な内容を提供できるように努めます。

(富田 雅美)

